

2024年11月28日

## リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」を活用した社内実践を開始し、 AI の市民開発に向けた取り組みを加速 ～社内実践事例のノウハウを活用し、お客様の業務効率化を伴走支援～

株式会社リコー（社長執行役員：大山 晃）は、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify（ディファイ）」を開発する LangGenius,Inc.（本社：米国デラウェア州 以下、LangGenius）と連携し、Dify を活用した現場社員による業務効率化に取り組みます。第一弾として、リコーデジタルサービス BU のマーケットインテリジェンス支援業務で社内実践を開始しました。社員が各自の業務プロセスを効率化し、蓄積したノウハウをリコージャパン株式会社が育成を開始している AI エバンジェリストと連携してお客様に提供します。

近年の生成 AI の普及により、幅広い業務での AI 活用による業務効率化・生産性向上が検討されています。一方で、社内に AI の開発ができる人材がいない、開発にかかる工数や費用を懸念している等、実際の AI 活用には課題が存在しています。そんな中、技術的な知識がない人でも AI アプリケーションを簡単に作成し、広く利用できるようにする「AI の市民開発（AI の民主化）」が注目されています。

Dify とは、LangGenius,Inc.が開発したオープンソースの LLM（大規模言語モデル）アプリ開発プラットフォームです。RAG エンジンを使用して、AI エージェントから複雑な AI ワークフローまで、LLM を活用したアプリケーションやサービスを簡単に作成・運用することができます。最大の特徴としては、プログラミングの知識がなくても、ノーコードで開発できる点です。プログラムを書く必要なく、処理の機能を持つブロックをつなげていき視覚的にプログラムを組み立てる直感的なインターフェースで、多様な AI アプリケーションを簡単に作成できます。技術者ではない実際の担当者が、自ら業務に最適な AI アプリケーションを素早く開発する市民開発のために活用が期待されているプラットフォームです。

このたび、リコーは LangGenius とエンタープライズ契約を締結しました。まずは、デジタルサービス事業を推進するリコーデジタルサービス BU の社員に Dify のアカウントを配布します。今後、社内実践の取り組みをより高度化し、新たなビジネス機会創出、経営リスクの早期予見、ビジネス機会の損失防止等の迅速で客観的な経営判断サポートに活用します。

また、社内実践と並行して、リコーはお客様の要望に応じて、Dify を活用した個別の提案活動を進めています。Dify を活用することで、リコーが開発したオンプレミスで導入可能な LLM と合わせて、クラウドでセキュアなお客様環境下で、プライベート LLM を素早く構築することが可能です。

### <具体的なユースケースの例>

- ・ 社内外の FAQ 対応の効率化
- ・ 議事録や各種コンテンツの自動生成

株式会社リコー <https://jp.ricoh.com/>

報道関係のお問い合わせ先 広報室 TEL：050-3814-2806（直通） E-mail：[koho@ricoh.co.jp](mailto:koho@ricoh.co.jp)

お客様の問い合わせ先

仕事のAI お問合せフォーム

[https://www.secure.rc-club.ricoh.co.jp/shigoto-no-ai\\_inq?](https://www.secure.rc-club.ricoh.co.jp/shigoto-no-ai_inq?)

- ・ データ分析
  - ・ メール監査や契約書のチェック機能
- など、様々な業務を効率化・自動化することができます。

リコーはこれまでも、機器のダウンタイムの最小化に向けて AI を活用して保守サポートを効率化するなど業務のプロセス DX(デジタル技術とデータを活用した業務プロセス変革でオペレーショナルエクセレンスの実現を目指す全社活動)に取り組んできました。Difyを活用することで、現場の担当者自らが AI を開発する「市民開発」を実現し、組織内の AI 活用を加速し、業務効率化やイノベーションの創出を目指します。また、このような社内実践で得たノウハウを盛り込み、お客様が自社の業種業務に合わせて利用できる AI サービスの提供に活かすことで、お客様が取り組むデジタルトランスフォーメーション(DX)を支援してまいります。

#### 【リコーの AI 開発について】

リコーは、1990 年代に AI 開発を始め、2015 年からは画像認識技術を活かした深層学習 AI の開発を進め、外観検査、振動モニタリングなどに適用してきました。2020 年からは自然言語処理技術を活用し、オフィス内の文書やコールセンターに届いた顧客の声(VOC)などを分析して業務効率化や顧客対応に活かす「仕事の AI」の提供を開始しました。2022 年からはいち早く、大規模言語モデル(LLM)の研究・開発に着目し、2023 年 3 月にはリコー独自の LLM を発表し、その後も、700 億パラメータの大規模でありながらオンプレミスでも導入可能な LLM(日英中 3 言語に対応)を開発するなど、お客様のご要望に応じて提供可能な様々な AI の基盤開発を行っています。また、画像認識、自然言語処理に加え、音声認識 AI についても研究開発をすすめ、音声対話機能を持つ AI エージェントのお客様への提供も開始しています。

#### ■関連ニュース

リコージャパン、「AI エバンジェリスト」の育成を開始

[https://jp.ricoh.com/release/2024/1120\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/1120_1)

リコー、地域における学習環境開発プロジェクトに AI エージェントを提供

[https://jp.ricoh.com/release/2024/1106\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/1106_1)

リコー、モデルマージによって GPT-4 と同等の高性能な日本語 LLM(700 億パラメータ)を開発

[https://jp.ricoh.com/release/2024/0930\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/0930_1)

リコー、日英中 3 言語に対応した 700 億パラメータの大規模言語モデル(LLM)を開発、お客様のプライベート LLM 構築支援を強化

[https://jp.ricoh.com/release/2024/0821\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/0821_1)

インストラクションチューニング済みの 130 億パラメータの日本語 LLM を開発

[https://jp.ricoh.com/release/2024/0603\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/0603_1)

日本語精度が高い 130 億パラメータの大規模言語モデル(LLM)を開発

[https://jp.ricoh.com/release/2024/0131\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/0131_1)

先進的なAI技術を持つ独スタートアップ「natif.ai」の全株式を取得

[https://jp.ricoh.com/release/2024/0422\\_1](https://jp.ricoh.com/release/2024/0422_1)

## ■関連リンク

Dify.AI. (LangGenius, Inc.)

<https://dify.ai/jp>

---

※社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

## | リコーグループについて |

リコーグループは、お客様のDXを支援し、そのビジネスを成功に導くデジタルサービス、印刷および画像ソリューションなどを世界約200の国と地域で提供しています(2024年3月期グループ連結売上高2兆3,489億円)。

“はたらく”に歓びを 創業以来85年以上にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。<https://jp.ricoh.com/>